

令和5年度第2回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日 時 令和6年3月19日(火) 18:00~18:56
- 2 会 場 仙台市立病院 3階第2会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、島村弘宗委員、鈴木信子委員、矢川昌宏委員、大和一美委員(委員5名)
奥田病院事業管理者、渡辺院長、伊藤理事、日下次長(兼)経営管理部長、佐々木看護部長、佐々木健康福祉局保健衛生部医療政策課長、太田総務課長、堀江経営医事課長、川辺情報システム課長、高橋財産管理課長、福井総合サポートセンター副センター長、佐藤健康福祉局医療政策課医療政策係長、鈴木経営医事課財務収納係長、吉野経営医事課企画医事係長、荻原財務収納係主任、齋藤主事、武田診療情報管理士、渡邊診療情報管理士

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 挨 拶
- (3) 報 告
 - ① 令和6年度予算について
 - ② 仙台市医療政策基本方針について
- (4) 議 事
 - ① 仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)進捗状況について
(2023年4月~12月実績)
- (5) そ の 他
- (6) 閉 会

配付資料

- 資料1 令和6年度予算について
資料2-1 仙台市医療政策基本方針(最終案)[概要版]
資料2-2 仙台市医療政策基本方針(最終案)
資料3 仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)進捗状況

<議事概要>

- (1) 開会
- (2) 挨拶
奥田事業管理者から挨拶。
- (3) 報告
 - ・会議公開の確認⇒異議なし(傍聴者1名)。
 - ・議事録署名委員を島村委員、大和委員に依頼。⇒了承。

- ① 令和6年度予算について
(事務局から資料1を説明)
(質疑応答)

【矢川委員】

令和5年度の決算見込みと令和6年度予算についてであるが、令和6年度予算は医業収益171億6,500万円で医業費用が202億100万円で医業損失が30億3,600万円である。医業外収益は23億6,600万円で医業外費用が11億円で経常損失が17億7,000万円である。公営企業では、減価償却前利益の確保というのを重視するが、令和6年度予算は経常損益の減価償却前で3億5,500万円の損失となっている。

一方で、資本的収支予算では令和4年度の企業債現在高は211億900万円、令和5年度の決算見込みは202億5,000万円、令和6年度予算は198億700万円である。これを返済する財源

は、公営企業の場合、法人税の納税がないため、経常キャッシュフローで考えると令和6年度予算はマイナス3億5,500万円となる。また、令和6年度予算の企業債現在高は198億700万円であり、現金預金は69億3,000万円であることからネットのローンが128億7,700万円となり、令和6年度は計算上、債務償還ができないということになる。また、ネットのローンを返済する経常キャッシュフローで割って債務償還年数を算出してみると令和4年度は、ネットのローンが131億円で、経常キャッシュフローが18億9,700万円であるため、約6.9年となる。令和5年度決算見込みでは、ネットのローンが124億円で、経常キャッシュフローが5,600万円であるため、約221年となる。なお、令和6年度予算では、マイナスとなるため、数字上は償還不能となるものの、貴院は、仙台市の後ろ盾があるため、償還不能になることはないと思うが、民間企業の場合は、重視する。経営計画でもこの考え方が生かされるため、予算編成の際に留意した方が良いだろうと考えている。

それから、令和6年度の建設改良費で手術支援ロボットを取得するということであるが、具体的にどれくらいの予算で何台くらい購入なるのかを伺いたい。

【仙台市立病院事務局 鈴木経営医事課財務収納係長】

約4億3,000万円で1台購入予定である。

【矢川委員】

承知した。

【藤森委員長】

償還の見込みが厳しいのではないかと指摘があったが、この件はどうか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

矢川委員の言う計算方法で算出すると、確かに償還不能になるが、建設改良費の元利償還金については、一般会計から2分の1を繰入するというルールがあるため、償還できないということはないと考えている。

【島村委員】

元々、手術支援ロボットを入れる予定で手術室などは補強していたのか。手術支援ロボットは重いので補強工事等を行うとなると大変なのではないか。

【仙台市立病院事務局 高橋財産管理課長】

手術支援ロボットを導入する上で、すでに業者による調査を行っており、手術室の補強工事の必要がないこと確認している。ただ、電圧を高める工事が必要だと業者から言われているため、対応が必要になる。

【藤森委員長】

手術支援ロボットの維持費はいくら位を見込んでいるのか。

【仙台市立病院事務局 高橋財産管理課長】

年間で約3,000万円を見込んでいる。

【藤森委員長】

一般病床稼働率は、非常に頑張っている印象で令和6年度予算の目標も高く、3.2ポイント増の84.6%という記載がある一方で、単価の高い救命救急センターの稼働率が非常に弱気な目標ではないかと思うが、何か理由があるのか。一番単価が高い病棟でもあり、この病棟から埋めていくのが民間病院の発想ではよくあることだが。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

ICU病棟においては、術後の特に重症な患者を入室させる運用としているが、改めて入室基準等の見直しを図りながら運用を検討していく。

【藤森委員長】

ICU病棟は、単価が高い病棟であるため、そのまま空けておくのは非常にもったいない。

現在の稼働病床数は、ICU病棟が14床、HCU病棟24床だと思うが、直近の稼働率はそれぞれのくらいか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

2月現在でICU病棟が61%、HCU病棟が82%となっている。

【藤森委員長】

HCU病棟の稼働は高い状況であるが、やはりICU病棟がやや低い状況である。ぜひ、稼働率を高めていただきたいと思います。

② 仙台市医療政策基本方針について

(仙台市健康福祉局保健衛生部から資料 2-1、資料 2-2 を説明)

(質疑応答)

【大和委員】

仙台市立病院経営強化プランの「経営の効率化等」に関して、経営指標に係る数値目標の外来診療単価が令和 5 年度の見込みが 20,586 円から令和 9 年度の目標で 22,000 円まで上がっているが、具体的にはどのような形で診療単価を上げていくのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

今年度より外来化学療法室を増床しているものの、まだ稼働が本調子ではない部分もあるため、更なる活用を促進していくことに加え、外来での手術が可能なものは積極的に外来で行うことで診療単価の上昇を目指していく。

【鈴木委員】

経営指標に係る数値目標の人件費率が令和 5 年度の見込みが 62.0%から令和 9 年度の目標で 59.4%と下がっているが、令和 6 年度診療報酬改定の中で処遇改善に係る改定があるため、賃金が高めになると想定されるが、そこをどうやって抑えていくかの方策を考えているのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

令和 5 年度の見込みと令和 9 年度を並べてみた場合には、人件費比率が抑えられているように見えるが、各年度の人件費比率を見た場合に退職金を含めて算出していることから退職者数の増減と比例して人件比率も増減がある。基本的には人件費比率は右肩上がり伸びていくことを想定している。

【藤森委員長】

資料 1 「令和 6 年度予算について」の事業計画では、外来患者数を増やしていくことは地域のニーズに添えていくためであることは理解できるが、一般的に医師の働き方改革を考えた場合の急性期病院では外来を絞っていく動きがある中で、あえて外来患者数を増やしていく目標となっている理由は何か。また、外来患者数を増やしていても医師の働き方改革には影響がないということなのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

積極的に外来患者数を増やしていくわけではないが、新たに紹介されてくる患者、外来化学療法の患者など新患を増やしていきたいと考えている。

【藤森委員長】

再診患者に関しては、少し逆紹介を増やしていこうという計画はあるのか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

逆紹介件数は伸びている状況であり、当院としても逆紹介を推進しているものの、当院での治療継続を希望し、地域の開業医に戻せない患者もいることから外来患者数が増加している。

【藤森委員長】

医師の働き方改革における水準は、A 水準か。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

基本的には、A 水準であり、一部が B 水準となっている。

【藤森委員長】

仙台市立病院経営強化プランの中で精神病床のことが全く触れられていないが、全体の病床稼働率を下げているのは精神病床ではないかと思うが、その点は仙台市も含めて精神病床に関してはどのように考えているのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

令和 6 年度よりコンサルテーション・リエゾンセンターを立ち上げるため、院内外の身体合併症精神疾患患者を受入れるための取組みを推進していく。まずは、精神病床稼働率 40%を目指していきたいと考えている。

【藤森委員長】

いろいろな経緯がありドラスティブな改革は難しいとは思いますが、県の精神医療センターがあのような形で注目を浴びているため、市立病院の精神科のあり方というのも当然ながら注目を浴びていくと思うので、ぜひご検討いただきたい。

(4) 議事

① 仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）進捗状況について

（2023年4月～12月実績）

（事務局から資料3を説明）

（質疑応答）

【大和委員】

2ページ目「戦略I-3：専門性の高い多職種からなるチーム医療の充実を図る」の「目標と実績」に関して、薬剤管理指導件数、退院時薬剤情報管理指導件数、入院栄養食事指導件数、外来栄養食事指導件数などが目標値よりも実績がちょっと下回っている状況であり、やはり薬剤師や管理栄養士等のマンパワー不足が要因なのかと感じられるところではあるが、今後の患者サービス提供においても人材確保が非常に重要となるとともに、令和6年度の診療報酬改定ではベースアップ評価料が新設されている状況を踏まえ、今後の人材確保については、どのような対策を考えているのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

人材確保については、特に医療技術職の充実を図っていきたいと考えているが、増員等する場合は、市の職員定数条例の管理下であることから市長部局との協議をしていく必要があり、早々に増員することは難しいところである。

【藤森委員長】

薬剤管理指導件数が1割弱、目標に達していなかったのは、ニーズがそれほどなかったのか、それとも薬剤師のマンパワー不足ということか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

ニーズはあると思うが、薬剤師のマンパワー不足ということもあり、対応しきれていない状況もあると考えられる。

【島村委員】

4ページ目「戦略I-4：医療安全の推進を図る」の「目標と実績」におけるインシデント報告件数はレベル0を除いての件数なのか。若干、少ないように思える。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

レベル0を含む件数となっている。

【島村委員】

インシデント報告件数のうち、医師からの報告はどのくらいの割合か。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

医師からの報告は約7%であり、多い方ではない状況である。

【藤森委員長】

2ページ目「戦略I-2：更なる高度医療提供体制の構築を目指す」の「目標と実績」における外来腫瘍化学療法件数が目標に届いていない状況となっている。先ほど、外来患者数を増やしていくための対策として、外来化学療法を増やしていきたいとの話もあったが、他病院では、外来での化学療法ではなく入院で実施し、病床稼働率を向上させる対策をとっている事例もある。貴院では外来患者数を増やすことに加え、病床稼働率の向上も考えているようだが、化学療法を入外どのようにメリハリをつけていくのか。また、なぜ目標に届いていないのか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

外来腫瘍化学療法件数における目標値の設定にあたっては、過去の最も実績の高い月をベースに設定したことから、目標値に無理があるように感じており、修正を検討していく。

また、当院としては化学療法を入院にシフトしていくという考えはなく、外来でしっかりと対応していく方針としている。

【藤森委員長】

直近までの外来腫瘍化学療法件数はどのような感じか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

4月から1月までの実績3,252件で、1月あたり325件となっており、12月までの1月あたり実績を1件下回っている状況であるが、まだ伸びしろがあると考えているため、利用促進を図っていききたい。

【島村委員】

6 ページ目の「戦略Ⅱ-4：費用の抑制を図る」に関して、貴院では、会議資料は紙ベースで運用しているのか、それともペーパーレス化し資料を投影する運用で行っているのか。参考までに仙台医療センターでは、会議資料を事前に各委員にメールで送付する運用とし、資料のペーパーレス化を進めたことで少しではあるが100万円ほど費用を削減できたので、ペーパーレス化することでわずかではあるが費用抑制を図れるのではないかと。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

全ての会議ではないが、一部の会議では、ペーパーレス化し、資料を投影する運用で行っている。また、今後はペーパーレス化して運用する会議を増やしていきたい。

【藤森委員長】

東北大学病院での会議は、ほぼペーパーレス化となっている。また、会議の8割はオンライン会議で運営している。ぜひ、ペーパーレス化を進めていただきたい。

話は変わるが、6 ページ目の「戦略Ⅱ-2：施設機能の無駄のない活用を図る」の「目標と実績」におけるICU新規入院患者数をみると非常に頑張っていると感じているが、ICU病棟稼働率が追いついてきていないのは、在室日数が短縮しているということか。また、新規入院患者数は増えているが、ICU病棟稼働率が下がっているのは、なぜか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

ICU病棟についても在室日数が長くはないため、稼働率が伸びないという状況である。また、重症度、医療・看護必要度を意識していることも在室日数が短縮される要因としてある。

【藤森委員長】

入棟患者が増えている状況であるため、在室日数のコントロールや重症度、医療・看護必要度の調整等を工夫することで稼働率を上げることができると思うので、積極的に活用していただきたいと思います。

【矢川委員】

7 ページ目の「戦略Ⅲ-1：地域の医療機関との機能分化及び連携を推進するため、前方・後方連携の強化を図る」の「目標と実績」の紹介率、逆紹介率について、他病院ではどちらも高いケースは少ないと思うが、貴院ではどちらも高い状況であり、何か秘訣はあるのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

職員に逆紹介を推進していくように呼びかけをしている。また、患者に対してかかりつけ医をもつように啓発する案内を院内に掲示し、患者にも周知をしている。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

管理者や院長が直接地域の医療機関に訪問して、紹介の呼びかけを行っていることも紹介患者が多い要因ではないかと考えている。

【鈴木委員】

職員満足度調査について、看護職の場合は職員満足度の悪い項目を見るのではなく、良い項目に着目して伸ばしていくと定着率も良くなっていくのではないかと。

(5) その他

① 減損会計に関する情報提供

【矢川委員】

自治体病院の会計士協会の公会計委員会で話題になっているのは、平成24年度の地方公営企業法会計の改正により公立病院も減損会計の適用が制度化されたところである。

減損会計とは、例えば手術支援ロボットを4億3,000万円で取得して、それにより稼いだキャッシュフローが4億3,000万円の半分以下の場合、その価値を下げ、経常収支比率がマイナスとなり、キャッシュフローが非常に低くなるため、全体の固定資産の価値が下がることとなる。このように価値が下がった分だけ帳簿価額を下げることで減価償却費が小さくする会計処理をするべきであるということだが、民間企業の場合は、多くの減損損失が発生するため、足かせになっている一方で、公的病院の場合は、減損会計を適用している割合は5%ほどであるため、今、話題となっている。

私もこれについて調べてみたところ、ある大学の先生が、公立病院における減損会計の適用実態に関して書いた文書があった。今後、多くの病院の経常収支比率がマイナスとなっている

ときに問題になってくると思うので、そういう観点で、財務会計を見ていく必要があると思うため、参考まで伝える。

② 令和6年度診療報酬改定について

【藤森委員長】

令和6年度診療報酬改定は本体プラスとなっており、要件が厳格化されて取得が難しいものなどあるとは思いますが、見通しはいかがか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課企画医事係長】

前回の改定ほど大きな収益を生む項目はないものの、ICU、HCUに配置される専任の常勤医師における宿日直等の条件が厳格化され、厳しい改定内容の印象である。

【藤森委員長】

確かにICU、HCUの医師配置は宿日直を行わない医師が配置できなければ、低い点数設定になってしまうなど厳格化されている。病院として進むべき方向性を見定めていながら診療報酬改定も対応してもらえればと思う。

(6) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 6 年 5 月 4 日

議事録署名委員

島村 弘宗

大和 一美
